

こうれん ふくい

も く じ

2020福井大会に向けて	1
第30回福井県公民館前期セミナー	2~4
令和元年度表彰受賞者・広報紙コンクール受賞館、 こうれんトピックス「優良公民館受賞館」	5
第69回福井県公民館大会	6~7
第30回福井県公民館後期セミナー	8~9
こうれんトピックス「第30回全公セセミナー」など	10~11
令和2年度事業予定	10
こうれんトピックス「愛知大会報告」	12



ディッチー ラット サウタン

©FUKUI/psp

福井県公式恐竜ブランド「Juratic」



揮毫：県公連副会長 山本 眞（高浜町青郷公民館）

『2020福井大会』に向けて

第42回全国公民館大会・第56回東海北陸公民館大会・第70回福井県公民館大会は『2020福井大会』の名称で、本年11月19日（木）・20日（金）の両日、福井市を会場に開催されます。大会には、東海北陸6県を始め全国から、1,300余名の参加を予定しています。大会主題には、「持続可能な社会を支える公民館～“人・つながり・地域”づくりに貢献する拠点をめざして～」を掲げ、これからの公民館像を思い描きます。さらに、5つの分科会ではテーマ毎にそれぞれの将来の展望を見据えられる内容になるよう企画しています。

第1分科会 地域づくりと公民館（ハピリン）

第2分科会 家庭・学校・地域との連携（福井県国際交流会館）

第3分科会 高齢社会と公民館（福井県国際交流会館）

第4分科会 文化の継承・発展（福井県国際交流会館）

第5分科会 地域防災と公民館（福井県協ビル）

また、全体会での記念講演は福井ブランド大使で、フレンチレストランオーナーシェフの秋元さくらさんに講演を、アトラクションでは福井ゆかりのマリンバとハープの演奏を地元在住の演奏家が熱演をします。充実した大会になるよう皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

大会実行委員長 中村 准（福井市文珠公民館）



第30回福井県公民館セミナー「前期」報告

仲間づくりへの導入と心構え

自分の魅力に気づき、深めて、

相手とのより良い関係をつくる

令和元年6月26～27日 鯖江市中河公民館 参加者72名



第30回の前期セミナーは、福井県立大学大学院看護福祉学研究科教授の吉弘淳一先生を講師としてお招きし、「仲間づくりへの導入と心構え」をテーマに開催しました。今後の地域社会を持続可能なものとする上で、社会教育施設である公民館が人づくり・地域づくりに貢献するために、公民館職員が専門職としての資質向上を図ることを目的として実施しました。

1日目の講義では、エゴグラムによる自己分析に基づいて各人が自らの魅力に気づき、その上で相手とより良い関係をつくるためのコミュニケーション方法を学びました。



講師 吉弘淳一教授



What is エゴグラム?

エゴグラムとは人間関係の心理学理論に基づいて作られた性格診断テストで、人の性格を5つの心の領域（CP、NP、A、FC、AC）に分けて分析します。今回のセミナー参加者には、あらかじめ各自が実施したエゴグラムを持参してもらいました。5つの領域の特徴は、次のとおりです。

CP…リーダーシップを発揮する管理職が多い。

自分を見失ってしまうこともよくあるが、誰もが程度高く持つておくことが必要な要素

NP…頼まれごとが多い、優しい人に多い要素。面倒見がよく、子どもを甘やかしてしまい、怒られたことのない子が育つ。

A…クールで、冷静に落ち着いている人に多い要素。この要素が低い人は人に騙されやすいため、常に冷静な状況分析を心掛けることが必要。

FC…感情や欲求を素直に表現でき、ストレスを開放できる人に多い要素。この要素が低い人はストレスを発散できるものを探す必要がある。

AC…いつもニコニコしており、自分さえ我慢すればいいという人に多い要素。この要素が低い人は自分の芯を持っていて、こうだと決めたら他人に流されない人が多い。

簡単な質問に答えていくだけで、あなたの性格がわかる!! 不思議なことに、エゴグラムの結果が似た者同士は、自然と集まってしまうものだそうです。心理学に興味のある方は、調べてみてはいかがでしょうか?

講義メモ1

「自然なコミュニケーションをとるためのポイント」

①相手に興味を持つこと

相手に興味を持つことで話題は勝手に出てくる。お互いに話題が出てこないことで、気まずい空気が流れ、「何か自分で話題を作らないか」と思っているうちは自然な会話とは言えない。傾聴力を磨いて、相手に興味を持つことでコミュニケーションは格段にとりやすくなる。

②思い込まないコミュニケーションを意識する

「こうあるべきだ」という思い込みを持たないように意識する。自分の価値観は自分が勝手に作ってしまった「型」に過ぎない。相手の視線を常に意識することが大切。

③「体験」を重視する

相手を理解する力をつけるために、まずは自分も同じ体験をしてみ、相手の視線を感じることが大切。自分の話を相手に聞いてもらうために、相手をどう変えていくか考えるのではなく、相手の視線を考え、相手が話したい気持ちになるように、まず自分が変わろうとすることが重要。



司会や参加者との
コメディートーク♪



“ラポーゼかわだ”
でのグループ討議



講義メモ2

「専門職としての公民館職員に求められる能力とは何か」

①観察力

何気ない会話の中からヒントを探る。地域の人達が何の気なしに訪れることができるのが公民館。訪れた住民と他愛無い会話をすることも非常に重要な仕事である。しかし、こうした会話の中からヒントを探ることが専門職である公民館職員として必要な能力である。楽しい会話に没頭するのではなく、心の中には少し冷めた自分を持つこと。相手の話に共感しながらも、事実だけを冷静に捉えることが大切。受容と共感をうまく使いながら話を聞くことで、たくさんの情報を引き出せる。

ここで注意しなければいけないのは「同情」と「共感」の違いだ。同情しているときの特徴は、「あくわかるわかる」という言葉が自然と出てくること。これは相手の立場に心まで入り込んでいて、つらい気持ちを共有している状態である。それに対して共感とは、事実だけを取り出して考えている状態。相手がつらいときに、一緒に落ち込むのではなく、冷静に相手の置かれている立場や環境なども考えながら相手の気持ちを理解すること。一見似たようなニュアンスの言葉だが、本質は全く別であり、専門職としては使いどころを見極めることが肝心だ。

②人の性格形成は環境80%、遺伝20%

地域の人達が集まる公民館では、住民の家族構成なども把握できるため「あの人の子供だから」と思ってしまうことがある。しかし、性格の形成は環境が80%、遺伝が20%であることが医学的に証明されている。相手の立場や環境に目を向け、その人の視線に立ちながら、話していることの背景までをイメージして話を聞くことが大切だ。

(次ページへ続く)

(前ページより)

セミナー2日目には9つのグループに分かれ、公民館で行う事業の企画立案を行いました。企画のテーマは「わくわくするような企画」。定員や時期、場所等を詳細に設定し、「すぐにでも実施できるようなものを」との指示の下、企画の意図や背景、その企画によってどのような効果が得られるのかといった点についても考えました。

グループ内のやり取りでは、メンバー同士、所属する公民館の課題や地域性、住民のニーズ等の違いに驚きの声が上がる場面もありましたが、共通課題として見えてきたのは、過疎化、少子高齢化、公民館を訪れる人の固定化、若年層の公民館行事への参加が

少ない等といった現状でした。それらを踏まえて、世代間交流を促進するイベントや、参加する層を限定しないようなイベントの企画が多く見られました。

どのグループでも意見交換が活発に行われ、企画のポスターや最後の発表も、趣向を凝らしたものがばかりでした。それぞれのメンバーの持ち味が存分に生かされていたのは、1日目の学習の成果と言えそうです。貴重な学びの機会となりました。



寝不足？も何のその、講義と実習に集中！



発表した企画の中には、実現に結びついたものも！
(11ページに関連記事あり)



セミナーアンケート より♪

- ♥ 専門職という言葉、今まで何度も聞いてきたが、改めてその言葉の意味を考えることができた。
- ♥ 公民館は専門職だということから、地区の方からの相談などに耳を傾ける(聴く)ことが重要であるという言葉が最も印象に残りました。
- ♥ 最初は2日間と聞いて、長いなあ…と思いましたが、「再発見」することや「新発見」することが多く飽きる時間が全くありませんでした。良かったデス。また研修に参加できる機会があれば是非参加させていただき、今後の自分の仕事はもちろん、プライベートにも生かしていきたいです。
- ♥ とかく見失ってしまいがちな心得、行動などを気付かせる講習。研修の合間に、他の市町の館長といういろんな話が出来て、有意義であった。様々なキャラを持った館長がいることに、驚き！当たり前か？
- ♥ とても楽しい研修でした。心理学的な考えから「公民館職員とは」と講演も私の視点にはないところからの見方で、とても勉強になりました。先生の話し方も、とてもソフトタッチで、語尾も「ですう～」という話し方なので、すーっと心に入ってきました。
- ♥ 吉弘先生の第2弾をぜひよろしくお願いします。主事であるためにはどうあるべきかの勉強が楽しくでき、私でも、もう少しがんばってみようと思えました。ありがとうございました。

令和元年度表彰受賞者

(敬称略)

東海北陸公民館大会表彰

福井市宝永公民館館長	塚谷 直人
福井市一乗公民館主事	伊與 まゆみ

全国公民館永年勤続職員表彰

福井市松本公民館主事	吉川 美栄子
福井市和田公民館主事	高瀬 良美
福井市上文珠公民館主事	山本 美恵子
越前市服間公民館主任主事	三田村 香苗
越前市武生東公民館主任主事	宮崎 真由美

(↑ 12 ページに関連記事あり)

福井県公民館連合会表彰

福井市宝永公民館主事	野坂 直美
福井市松本公民館主事	伊藤 敬子
福井市日の出公民館主事	小林 茂美
福井市社北公民館主事	田中 典子
福井市社西公民館主事	南部 恵
福井市和田公民館主事	上野 正代
福井市河合公民館主事	浅井 雅代
福井市安居公民館主事	円光 淑美
福井市清水西公民館主事	山下 英美
福井市清水北公民館主事	吉田 美絵
福井市鶉公民館主事	新屋 恵
福井市文珠公民館主事	前川 俊子
福井市美山公民館主事	土田 和美
敦賀市南公民館館長	佐上 一洋
敦賀市栗野公民館館長	伊原 隆
越前市王子保公民館主事	宮崎 妙子
坂井市三国コミュニティセンターセンター職員	橋野 智子
坂井市新保コミュニティセンターセンター職員	魚谷 啓子
坂井市鳴鹿コミュニティセンターセンター職員	松崎 香奈恵
坂井市丸岡城のまちコミュニティセンターセンター職員	林田 悦子
若狭町西田公民館主事	畠中 八重子
若狭町三宅公民館主事	鑑継 みどり

(↑ 6～7 ページに関連記事あり)

令和元年度広報紙コンクール受賞館

A コース

- 【最優秀賞】若狭町熊川公民館 『公民館だより 鯖街道熊川』
 【優秀賞】福井市社北公民館 『広報 やしろ北』
 坂井市のうねの郷コミュニティセンター
 『Noune+ (のうねの郷だより)』
 【優良賞】越前市坂口公民館 『夢 n a v i さかのくち』
 坂井市鳴鹿コミュニティセンター
 『鳴鹿 まほろば』
 高浜町和田公民館 『和田公民館だより「うらら」』

B コース

- 【最優秀賞】鯖江市中河公民館 『きらめき中河』
 【優秀賞】あわら市細呂木公民館 『ほそろぎ通信』
 越前市岡本公民館 『ふるさとおかもと』
 【優良賞】小浜市松永公民館 『まつなが』
 勝山市勝山公民館 『勝山公民館だより せいき』
 越前市南中山公民館 『こふじ』

(↑ 6～7 ページに関連記事あり)



優良公民館受賞館決定！

第72回優良公民館表彰(文部科学大臣表彰)に、福井県からは福井市酒生公民館、永平寺町永平寺公民館が選ばれ、2月14日(金)、文部科学省第2講堂において表彰されました。おめでとうございます。

福井市酒生公民館は「ふりがえる、よみがえる、かんがえる、わかがる、みちがえる」を校訓に、小学校の教科書を用いて記憶を辿りながら楽しく学ぶ高齢者学級『かえるの楽校』、永平寺町永平寺公民館は「みーんな顔見知り」をモットーに展開する活動の一つ『ひまわりの背高のっば大会』などの特色ある事業が高く評価されました。

これらの活動については、来年度の公民館セミナーにて発表していただく予定です。





第 69 回福井県公民館大会

令和元年 10 月 9 日（水） 勝山市 市民会館



県公連表彰



勝山市長 山岸正裕氏



広報紙コンクール表彰



河合広栄氏による
記念講演



第 69 回福井県公民館大会は、勝山市市民会館において「社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくり」をテーマに、県内の公民館関係者が一堂に会し盛大に開催されました。開会式典においては、福井県公民館連合会表彰 22 名、広報紙コンクール表彰 12 館の表彰が行われました。

記念講演では、プロデューサーの河合広栄氏をお迎えし、『えちてつ物語』に込めた思い」と題してご講演いただきました。

河合氏は勝山市出身で、高校卒業後に上京し芸能関係の会社に入社。その後、2002 年には芸能プロダクション及びドラマ制作会社を設立し、2018 年の『えちてつ物語』が初の長編劇場公開映画となりました。体で仕事を覚える、人から頼りにされる、また「人を想う心、街を想う心、故郷（地域）を想う心」には魂が宿り奇跡が起こる…この『えちてつ物語』も、いろんな奇跡が起こり成功につながったとお話されました。次回は『おしよりん』を制作したいと意気込んでおられます。現代人に足りない真心を伝え、愛を伝えたいとのこと。言葉一つ一つが力強くこれから公民館活動をしていく上でとても参考になりました。



表彰受賞者の皆さま



アトラクション
ほほえみ太鼓



福井市清水西公民館



越前市岡本公民館



午後からは、平成30年度文部科学省優良公民館被表彰館の優秀館である福井市清水西公民館と越前市岡本公民館の事例発表が行われました。

清水西公民館は、こだわりと地域の人びとの和（輪）を広げる「公民館活動」についての発表でした。平成18年の合併時には専用の建物が無く、講座などは各集落を巡り住民が来やすい場所を会場に事業を行っていました。合併から3年後に公民館が竣工され、各委員会での話し合いや全体の調整がしやすくなりました。その中で、若者と地域をつなぐ活動として意見交換会を開催し、会を重ねて、地区名の「西」と「遊」んで楽しみながら住んでいる街を「輝」かせたい、自分達も輝いていきたいという思いで青年グループ「しみず西遊輝」が発足されました。各イベントに積極的に取り組み、次世代を巻き込んだ継続性のある活動にしていきたいという大きな目標を上げています。

続いて岡本公民館から、おかもと塾「青年活動支援事業」について事例発表がありました。地域の若者が主体となり、この地域でしかできない事業を展開する中で、仲間づくりを目標に掲げ、新成人が地区の祭りに「岡本カフェ」を出店し、さらに次世代のリーダーとして事業を企画

立案した「岡本イルミフェスタ」では夜空にスカイランタンを上げることに成功するなど、地域の事業に新鮮な風を吹き込むことが出来ました。また若者らしくSNS等で情報の共有、収集、発信が密になり活動の幅が広がっています。こうした青年や子どもが活動できるように支援していきたいと語っておられました。

いずれも地域の実情や特性を活かしたまちづくりに精力的に取り組まれている活動内容の発表でした。会場の参加者からの質問にもお答えいただき、学び多き大会となりました。



勝山大会特別企画の
“まち歩き”は、大盛況
でした！



モノクロでも映える！

「チラシづくりのコツ」

令和元年12月5日(木) 福井県生活学習館

パソコンやスマートフォンの普及によりウェブ上で様々な情報が入手できる現代社会においても、紙を用いたチラシやポスターは、小さな子どもから大人までインターネットを利用しない人々の目にも触れやすく、最も有効な情報発信の手段であると言えます。そこで今回の後期セミナーでは、思わず手に取ってみたいような、そして参加したくなるような「チラシづくり」の技法を学びました。

講師はチョークアート工房のこりす代表 柏倉晶代氏。近年、オシャレな店によく見かける黒板POPアートの作成や指導を数多く手がけておられます。先生の軽妙な語り口で終始楽しく、また内容の濃い研修となりました。

午前の部の講義で教わったチラシづくりのポイントと、テーマごとに紹介します！

講師 柏倉 晶代氏



■ターゲットとイメージ設定のポイント

- ① ターゲットは「幅広く」ではなく、「絞り込む」
- ② ターゲットが女性なら「雰囲気重視」、男性なら「スペック重視」。
- ③ 全体のイメージから関連するモノや色を書き出そう。

■内容整理のポイント

- ① 「5W2H(誰が、いつ、どこで、何を、どうする、なぜ?いくら?)」を的確に。
- ② 優先順位の高い内容を大きく表現。

■キャッチコピーのポイント

- ① 分かりやすく簡潔に。
- ② 文章に専門用語を使わない。
- ③ いくつかの候補を書き出して、レイアウト時、優先順位にそって選択。

■レイアウトのポイント

- ① 「余白」、「メリハリ」、「整列」で見やすくする。
余白には、近くにある情報の干渉を防ぐクッションのような役割があるので、詰め込みすぎない。
- ② 横書きの場合、優先順位の高いものは大きく左上、低いものは小さく右下に配置。
- ③ 余計な情報は思い切ってカット！

■描くときのポイント

- ① 「なんとなく」が最大の敵！なぜそれを使うのか？もう一度、よく考えて。
- ② 色・文字・飾り、すべてに目的とイメージを意識する。デザインの形状や文章、レイアウトに統一感を持たせる。

キーワードや見出しなど強調したい部分は色を変えたり、大きくしたり、囲ったりして本文と差別化する。

- ③ 全体を作ってから、細部を微調整してバランスを確認。ターゲットの立場で見直しをすること！

■モノクロで映えるコツ

- ① 白が多いと軽い仕上がりに。黒が多いと重い仕上がりになる。
- ② 文字の強弱や写真などの、白黒の割合に注意。
- ③ 重い感じなら、文字を白抜きに。
- ④ モノクロにはグレーも含まれる。グレーの濃淡で様々な表現が可能になるが、微妙な調整が難しいときは、カラーで作ってモノクロ印刷するのも一つの方法。



※各チラシの内容は、
フィクションです。



午後の部では、グループに分かれて「チラシづくり」の演習と添削を実施しました。演習を通して、チラシを作るコツを理解することができました。

良いチラシは、シンプルで分かりやすいもの。どんなに手間をかけて作っても、相手に手に取って見て読んでもらわなければ意味がありません。

相手の心にとまり、心を動かすキャッチコピーが重要です。普段から、いいキャッチコピー・文章はメモしておく事も大切です。

公民館職員として、これからも、相手の意欲をかきたて、生涯学習の入り口となるようなチラシづくりに挑戦していきたいと思っています。

ターゲットを思って作ること。ターゲットの人が見やすいチラシを作ること、受講したい気持ちやわくことに改めて気づきました。自分が作りただけの、自分本位のチラシ作成にならないよう、イラストや文字の大きさを変えたりして作ってみたいです。

日程は丸1日だったが、講義のみではなくワークショップがあり、とても短く感じた。館に戻ってすぐやってみみたい事が満載だった。市をこえた県全体の研修は、視野が広がりとてもよかった。

公民館勤務になったとたん、いきなりやったことのないチラシ作りをしなくてはならなくて、戸惑っていたので、今回の研修内容は大変参考になった。

内容は小さくてもOK。目立たせたい、大事な部分を大きくすれば、興味のある人は見るし、興味のない人は、たとえば大きな字でも見ないという言葉。たしかに！！と思いました。



センスがある、なし、は見る人によって異なるもので、不確か！「知識」「情報」が重要。勉強しなければと痛感した。

チラシづくりのコツがよく分かった。人の目線の動き（Z、N）を気にしながら作成する事を心がけたい。今回のグループワークで、意見を出し合う事により、自分のスタイルのチラシ作りとちがった考え等が聞けて、楽しく作成出来た。

チラシは作る前の“下準備”がとても重要だということ、ワークショップで実際にやってみてよく分かりました。1つ1つ作ったチラシを添削してもらえたので、反省点など勉強になることが多く、ためになりました。

これからの公民館戦略とは

～第31回全国公民館セミナー報告～

令和2年1月29日(水)～31日(金)の3日間、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、「第31回全国公民館セミナー」が開催されました。テーマは「新しい時代の公民館戦略を考える」。福井県からは、県公連研修専門委員長の平野さんを始め、3名の方々が参加され、感想をお寄せくださいました。

越前市花筐公民館主事 平野祐子さん

全国公民館セミナーで、“ズキューン”と心に残った事を記載します。

●初日の前田学浩氏が、「公民館職員は、AI技術がどんなに発達しても、とって代われない」と公民館を拠点としたカレーライスおびき寄せ作戦や、軽トラの荷台販売などの事例を紹介。地域づくりには、人と人とのつながりを大切にすること。

●宮城潤氏は、地域でしゃべり場＝「つどう・まなぶ・むすぶ」をコンセプトに、面倒くさいことを乗り越えたと楽しさがうまれる！小さなコミュニティ(居場所)を顕著化し、それを広げ地域がゆるやかにつながると良いと。

●2日目『お笑い芸人に学ぶコミュニケーション術』パーゲンセールのわさびちゃんによる講義は必見！福井県の公民館セミナーにも講師としてお呼びしたいものです。実現したら是非ご参加を！

●山田義郎氏は、今後広報の媒体としてSNSの活用は必須と考え、YouTubeを使って「誰に何をどのように伝えるか」を念頭に勉強されたそうで、公民館にも近い将来確実に必要になると。

●牧野篤氏からは、「人生100歳時代が到来する。雇用も委託契約に変わり、人生の節目節目で『学び』が必要になる。生涯『学び』の社会、動き続けることで持続する社会、『学ばないといられない社会』になる、と。という事は80過ぎてもボーと出来ない世の中がくるのか…と怖さを感じつつも、全国から集まった公民館主事とも意見交換ができ、意義深い研修でした。

※ 前田学浩氏…南国市稲生公民館顧問

宮城潤氏…那覇市若狭公民館館長

わさびちゃん…お笑い芸人

(『月刊公民館』の人気コーナー「笑う公民館には芸人きたる」担当中)

山田義郎氏…マルチメディアプロモーションサービス

牧野篤氏…東京大学教授



↑ 講義の様子



↑ 「お笑い公民館ライブ」の様子

福井県公民館連合会 令和2年度事業予定

(1) 福井県公民館連合会総会

期 日 令和2年5月28日(木)

会 場 福井県生活学習館

(2) 福井県公民館セミナー

期 日 令和2年6月26日(水)・27日(木)

会 場 嶺北(詳細は未定)

※令和2年度は後期セミナーは開催しません。

(3) 公民館広報紙コンクールの実施

8月下旬応募締め切り

9月上旬審査会

(4) 2020福井大会

第42回全国公民館研究集会

第56回東海北陸公民館大会福井大会

第70回福井県公民館大会

期 日 令和2年11月19日(木)・20日(金)

会 場 福井市

全体会：福井市フェニックス・プラザ

分科会：ハピリン、福井県国際交流会館、

福井県協ビル

参加費 3,000円

福井市河合公民館主事 藤田育代さん

今回のセミナーに参加して特に印象的なことは2つあります。1つ目は公民館は決まりきった今まで通りのことをしていても駄目だということです。特に共感したのは、沖縄県的那覇市若狭公民館の事例発表です。地域の拠点施設である公民館が地域の魅力を引き出し、地域の方々の自治意識を育み、ユニークな取り組みをして豊かな地域を創り上げているという発表内容でした。河合地区のことを東京という遠いところから振り返ってみると、我が公民館も少しずつこれに近づいているかなと感じました。2つ目は、高齢化社会に伴う様々な課題です。世界で一番の長寿国日本ですが、「生き方」を考えた時、本当に満足な人生が送れるか？それを実現することは大きな課題であり、ここに公民館の社会教育が大いに役立つ可能性があることが分かりました。またそこに、公民館職員という「専門職」の技量が影響することも改めて確信しました。

このセミナーに参加して公民館職員も日々学習していくことが必須だと痛感しました。またその自らの学習を通じて、地域に貢献することで地域が豊かになるのかと思いました。

小浜市加斗公民館館長 木村武史さん

この3日間で多くのことを学びました。

社会が予測もつかないほどに大きく変化している中で、自ら学びたいモノを探し、やりたいコトに挑戦でき、様々なヒトとつながることが出来る「公民館」は、これからの時代に必要なものであり国からの期待も高いこと、そして未来に向けて対応できるものであることを認識しました。

公民館は様々な要素を持っているが、これからは社会教育の拠点として地域づくりをどうするかが非常に重要になってくる。体験を通して、つながることや将来地域を受け継ぐ子供や若者に向けた活動が必要であり、企業的な発想を取り入れエビデンス（証拠）を示すことも重要だということを学びました。さらに公民館はコーディネーターとして地域が楽しく見えるように工夫することも大事だと学びました。

ただのハコモノと言われないためにも、一つ一つの事業に誰が「つどい」、どういう「まなび」になるのか、誰と誰、誰と何を「むすぶ」のかというのを意識しながら地域の人たちと一緒に考えていきたいと思っています。

F acebook 賞を受賞！

昨秋に開催された第3回全国公民館インターネット活用コンクールにおいて、高浜町和田公民館が特別賞を受賞されました。

特別賞には3つの賞があり、和田公民館は「Facebook賞」に選ばれています（あとの2つは「地域情報発信賞」、「ブログ賞」です）。こちらのFacebookページは登録者数が500人を超え、いいね数も多く、公民館の情報のみならず地域の行事などについて、ほぼ毎日更新されている点が評価されました。

一人でも多くの人に公民館を知ってもらいたい、そんな思いから村宮館長がページを開設されたのは2012年。長続きの秘訣や投稿の際に注意されていること等について、館長が『月刊公民館』3月号に寄稿されています。是非ご覧ください！



セ ミナー企画を実践！

本紙2～4ページに掲載の前期セミナーにおいて、グループワークで企画立案した事業を、公民館で実践しました、というご報告をいただきました！

事業名は『ハロウィーンで



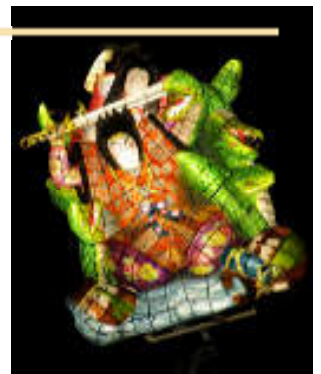
顔見知り』、実践されたのは永平寺町永平寺公民館です。若い世帯と、古くからの住民との交流が課題で、普段から顔見知りでないと、「子ども110番の家」になっているご家庭でも、いざというときに子ども達が駆け込むことができない…といった懸念もありました。そういった現状を改善するために考えられた、この事業。

たくさん子ども達が集まり、一緒に一軒一軒訪ね歩くことで、楽しく交流することができたそうです。出迎える住民の皆さんもノリノリで衣装を着た中、大関館長(右写真)の気合の入った魔女姿を見て「こわい～」と泣き出す子もいたそうです。が…事業としては、大成功！

これからも、セミナーで生まれた企画が実を結んだ事例がありましたら、県公連までご一報ください！



全 国・東海北陸公民館大会 愛知大会



アトラクション 万燈(まんど)祭

第41回全国公民館研究集会・第55回東海北陸公民館大会愛知大会は令和元年10月17日～18日、愛知県刈谷市において、「公民館で創る地域の未来―地域や人がつながる魅力ある公民館づくりをめざして」をテーマに開催され、東海北陸地区を始め全国各地から1,037名が集いました。福井県からは100名が参加しました。

今回の大会は、「2020福井大会」の事前研修として、より多くの理事の方に参加をしていただくため、参加費の補助を実施いたしました。

1日目の全体会では表彰式や文部科学省の施策説明のほか、カレーハウスCoCo壱番屋創業者の宗次徳二氏による「私のカレーなる人生」と題した記念講演がありました。

また閉会行事では、東海北陸公民館大会の大会旗が、次期開催県である福井県に引き継がれ、福井県公連の江岸会長が多数の参加を呼びかけました。



大会旗の引き継ぎ



今大会で表彰を受けられた方々



宗次氏による
記念講演



第4分科会
で発表する
小柳館長



2日目は5つの分科会が行われ、福井県からは第4分科会において越前市花筐公民館の小柳和則館長が「地域に根ざすコミュニティづくり～伝統文化を継承する公民館活動」と題して事例発表されました。勝山市勝山公民館の雲竜常寿館長による司会進行の下、発表についての質疑応答や、県や市町によって異なる公民館の管理・運営に関する研究討議が進められました。



福井県からの 参加状況	市町名等 参加者数	福井市	鯖江市	あわら市	越前市	坂井市	永平寺町	美浜町	おおい町	県教育庁	県公連
		56	5	1	7	13	3	2	5	1	7

「こうれんふくい」第86号

《発行》 福井県公民館連合会
〒918-8135 福井市下六条町14-1
福井県生活学習館2階
TEL/FAX (0776) 41-4077
E-mail f-kouren@kore.mitene.or.jp

《編集》 広報紙委員会
福井市美山公民館
大野市大野公民館
鯖江市吉川公民館
福井県公民館連合会事務局

土田 和美
伊藤 暢康
福嶋 幸代